

第5学年 道徳学習指導案

- 1 主題 「男女の友情」(中心資料:「言葉のおくりもの」出典:みんなのどうとく 学研)
【高2-(3)互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。】

2 主題設定の理由

- 本学級の子どもたちは、第1学年よりクラス替えがなく、4年間以上クラスメイトとして生活してきており、お互いがどのような性格で、どのような考えをもっているかなど、おおよそ理解し合っている。また、休み時間には男女を問わずドッジボールやサッカーをして楽しんだり、男子が提案した集会を、女子が協力してつくり上げ、男女が協力する心地よさを実感したりする姿も見られる。

しかし、一方で、日常の生活場面において女子の忠告を男子が素直に聞かなかつたり、また、男子の考えを女子が理解しようとしなかつたりするなど、男女間においてお互いを認めようとしな場面も見られる。

これは、精神的な発達過程で不安定な時期になり、周囲の見方や相手の見方を意識するあまり、異性間において相手を素直に認めることができず、反発や対立を生じる傾向があることが考えられる。

そこで、相手の心情を理解することで、真の友人関係が男女を問わず誰とでも成り立つことを考えることが望まれるこの時期に、本主題を設定する。そして、お互いを信頼し、敬愛する心情を育てたい。このことは、男女で協力し助け合っていこうとする心情を育むとともに、道徳的実践力を養う上で意義深いと考える。

- 友情の本質は、信頼と敬愛にある。友達を信頼し敬愛することによって、人は自分も友達に信頼され、敬愛されるような人間であろうと心がけるのである。信頼と敬愛で結ばれた友達はお互いに助け合い励まし合う。さらに、お互いに忠告し合いもする。友達同士でかかわり合うことが、社会的な成長につながる。ここに、友情を深めることの大切さがあると考えられる。

本主題に関しては、中学年において、健康的な仲間集団を積極的に育成し、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを中心とした学習をしてきた。それを受けて本主題では、異性に対しても、信頼を基にして、正しい理解と友情を育て、協力して助け合うことの学習をする。このことは中学校での、男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する学習へと発展していく。

- 本資料は、消しゴムを拾ってあげたという親切な行為が、かえって男女間に不信を生みだすが、明るく自分を語るすみ子のすがすがしい態度に、主人公が少しずつ自らの行為を省みて心を開いていくという話である。「協同」という学級目標の下、共通の目標に向かって協力して取り組むことを目指している子どもたちにとって、自分自身の体験と重ねて考えることができる生活資料である。

本主題の指導に当たっては、学習過程を「つかむ」「見通す」「考える」「見つめ合う」「生かす」の5つに分ける。そして、子どもが自分の体験と重ねて考えたり、自分の生活を振り返ったりできるように、それぞれの過程で、主に子どもの体験を生かした手立てをとっていく。各過程の主な手立ては以下の通りである。

「つかむ」段階においては、男女で協力し助け合うための大切な心を見つめ、目的意識をもって資料に出会うことができるように、これまでに男女で協力し合えたことや、協力し合えなかったことを出し合い、本時学習の方向性について話し合う活動を仕組む。「見通す」段階においては、資料中の登場人物の気持ちを考える場面についての見通しをもつことができるように、読み物資料の教師の範読を聞きながら、登場人物の強い心や弱い心が表れている場面を考える活動を位置づける。「考える」段階では、男女で協力し助け合うことの価値観を顕在化し、違いを明らかにするために、からかわれて憂鬱な一郎と、平気で明るく活発にしているすみ子、そして、一郎とすみ子の関係をからかうたかしの気持ちを比べて考え、話し合う活動を位置づける。「見つめ合う」段階では、道徳的価値を自分事として捉えることができるようにするために、「心のノート」の「紗代さんの思ったこと」や女子児童の作文を聞く活動を位置づけるとともに、再度、「つかむ」段階の生活体験を想起させ、「男子・女子がいてよかったと思うこと」や「男女が仲良く協力するために大切な心」を考え、交流する活動を位置づける。「生かす」段階では、現在の学級のよさを実感し、今後お互いを信頼し、協力して助け合っていこうという思いを高めることができるように、今後の生活の中で男女の協力が必要になってくる活動を考え交流する活動を位置づける。

3 ねらい

日々の生活の中で、男女を問わずあらゆる友達に誠意をもって接し、お互いの良さを認め信頼し合いながら、男女が仲良く助け合おうとする心情を育てる。

4 準備

教師：場面絵、児童作文
 児童：道徳プリント、資料

5 展開

過程	学習活動と予想される子どもの反応	指導上の留意点(○)及び評価(※)
つかむ	<p>1 自分の生活経験をふり返り、本時のめあてをつかむ。 (1) 男女で協力し合えた経験や協力し合えなかった経験を出し合う。 ◎ 英彦山登山で、励まし合いながら頂上まで登ることができた。 △ 朝の会のサンサuntimeで、男子が私語ばかりして、ゲームが進められない。</p> <p>(2) 本時のめあてを考える。 男女が仲良く協力するために大切な心を考えよう。</p>	<p>○ 道徳的価値への方向付けを図ることができるようにするために、事前アンケートをもとに、これまでに男女で協力できたことやできなかったことを対比する板書を行う。</p> <p>○ それぞれの行為の背景にある心を見つめ、めあてを考えることができるようにするために、事前アンケートの結果をもとに意図的指名を行う。</p>
見通す	<p>2 教師の範読を聞き、強い心と弱い心が表れている場面を考える。</p>	<p>○ 教師の範読を積極的に聞き、中心場面について見通しをもつことができるようにするために、登場人物の強い心と弱い心が表れている場面に線を引きながら聞くようにする。</p>
考える	<p>3 資料「言葉のおくりもの」をもとに、一郎の気持ちや考えについて話し合う。 (1) 日直で窓閉めをしていた場面 (2) リレーで転んだたかしに、すみ子が声をかけた場面 (3) 誕生日の一郎に、すみ子が「言葉のおくりもの」をし、たかしが握手を求めてきた場面</p>	<p>○ 一郎の考えの違いや変容をつかむことができるようにするために、それぞれの場面での「すみ子の言動」、「たかしの言動」、それに対する一郎の気持ちや考えを比較できる板書を行う。</p>
見つめ合う	<p>4 本時の学習で考えた心をまとめ、今の自分にとって必要だと思った心を考える。 (1) 男女が仲良く協力するための大切な心をまとめる。 あ：男子・女子のいいところを認め、お互いに協同していこうとする心 い：男子・女子の気持ちを分かってあげようとする心 う：同じ5年生として協力していこうとする心 え：男子・女子が困っているときは助けてあげようとする心</p> <p>(2) まとめた大切な心の中で、今の自分にとって必要だと思ふ心を見つけ、書く。</p>	<p>○ 道徳的価値を自分事として捉えることができるようにするために、「心のノート」の「紗代さんの思ったこと」や女子児童の作文を聞く活動を位置づけるとともに、再度、「つかむ」段階の生活体験を想起させ、「男子・女子がいてよかったと思うこと」や「男女が仲良く協力するために大切な心」を考え、交流する活動を位置づける。</p>
生かす	<p>5 今日の学習で見つめた大切な心を生かしていきたいこと(場面)を考え、これからの生活について希望をもつ。</p>	<p>※ 大切にしたいと思ふ心を、自分の生活体験と重ねながら書いている。</p> <p>○ 現在の学級のよさを実感し、今後もお互いを信頼し、協力して助け合っていこうという思いを高めることができるように、今後の生活の中で男女の協力が必要になってくる活動を考え交流する活動を位置づける。</p>

名前 ()

めあて

言葉のおくりもの

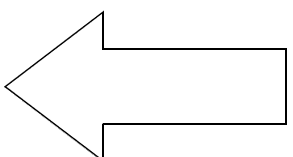
○ 日直でまどしめをしていて、植木ばちをわってしまったとき、一郎はすみ子に対して、どんな気持ちだったでしょう。



Blank rectangular box for writing.



たかしさん、こんなこともあるのよ。気にしない、気にしない。



○ すみ子が「言葉のおくりもの」を読み終わり、たかしが一郎にあく手を求めに行ったとき、一郎はどんな気持ちになったでしょう。

Blank rectangular box for writing.



◎ 「男女が仲良く協力するために大切な心」は、どんな心でしょう。

Blank rectangular box for writing.

○ 今日の学習で考えた、自分でできて「大切だ」と思っていること、ほっとしていること、また、うっかりしてしまったこと、か。

Large dashed-line rectangular box for writing.